

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス コレクト太宰府教室			公表日	令和8年4月24日		
	チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	2		部屋数、空間に限りがあるので、運動のトレーニングの時は机を部屋から出して広い空間を作ったり子供たちを2組に分けて実施したりと工夫している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10			目が離せない子どもがいる日は指導員を多く配置し、担当を決めている。またお出かけ活動の時は多めの職員を配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	3		典型的な日本家屋でありバリアフリーではないが、滑り止めマットを敷き詰め、危険のないようにしている。訓練の道具を難易度に分け、カラーシールを貼り、子供たちが視覚的にわかるように工夫している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	2		広いスペースではないが、学習スペースとフリースペースに分け、物の配置を決めて、子どもたちが収納棚に自分でしまえるようになっており、清潔で整理整頓された空間になっている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	1	1	体調不良や、癇癪がなかなかおさまらず他の子どもにも影響が出そうときは事務所である和室を使っている。	プレイルームが2部屋続きの広い部屋であり、静かにしたい子供が個別に使える子供用の部屋がない。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10			日々のミーティング、指導員会議にて意見を出し合っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10			このようなアンケートを活用し、課題を見直し改善策を考え、努めていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10			学校お迎え前のミーティング、自宅送り後、終業までの時間の意見交換、また月1回の指導員会議にて意見を出し合い、業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	5	2		第三者による外部評価は行ってない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	9		1	適宜、外部の研修を受けたり、事業所内で研修をしている。	
適切か	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10			支援プログラムを作成し、ホームページに公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10			保護者との面談や日々の子供の様子、また指導員会議などを通してニーズや課題を分析した上で計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10			指導員会議や日々のミーティングで、子どもについて職員の様々な意見を聞き、検討、考慮して放課後等デイサービス計画を作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10			放課後等デイサービス計画に沿った支援を共通理解として支援を行い、日々の記録もしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10			保護者よりいただいた発達検査結果を職員で確認できるようにしており、また日々の記録も支援目標に対して問題点・改善点を記録しており、職員で共有、確認できている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10			「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」それぞれについて子ども、ご家族の支援に必要な項目を設定し、具体的な支援目標を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10			指導員会議で意見を出し合い、プログラムの立案や見直しを行っている。	

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10			子供の状況を見て、運動のトレーニングを変化させたり、手先の作業の自立活動も新しいものを取り入れ、それぞれの子供の能力、年齢にあったものがあるよう工夫している。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10			毎日行っている集団活動である運動のトレーニングと、個別や小集団で行う言語や作業などの専門的支援を組み合わせ、計画を作成、支援を行っている。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10			必ず支援前にミーティングをしており、その日の支援について、また気になる子供の様子などを話し合い、共通理解した支援ができるようにしている。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10			ご自宅への送迎後、終業までの短い時間ではあるが、気付いたこと、気になることはすぐ報告しあっている。		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10			毎日支援目標に対する問題点・改善点、またその日の気になった子どもの様子を記録し、職員で共通理解し、支援の検証・改善につなげている。		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10			定期的にモニタリングを実施し、できるようになったこと、次に出てきた新たな課題などを職員間で話し合い、支援計画の見直しを行っている。		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	8		2	「4つの基本活動」が組み合わせる支援できている。学校休業日に創作活動や地域行事参加、買い物体験など社会体験ができている。		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10			トレーニングなど集団の活動以外は、タブレット、自立活動、庭遊びなど子供が決めて活動できるようにしている。		
	関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10			児童発達管理責任者と、必要に応じて児童指導員や保育士が参加している。	
27		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10			必要があれば、連携できる体制にしている。		
28		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10			年間計画を確認したり、保護者より次週の時間割を送っていただき、送迎時間を確認している。		
29		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	10			当事業所利用前に、保育所や児童発達支援の方出席の担当者会議に参加したり、保護者を通じて資料を頂き、情報を共有している。		
30		学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		2	要望があれば、情報を提供していく。		
31		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7		3	児童発達支援センターの放デイネットワークに参加し、研修を受けたり、施設見学などに参加させていただいている。		
32		放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		10		今のところない。		
33		（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		2	3	自立支援協議会には参加したことはないが、太宰府市の障がい福祉ネットワーク会議には参加している。	
34		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10				保護者の方とは連絡帳に記入したり、送迎の時に伝え合っている。	
35		家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		3	2	保護者会の時に、作業所に行っているお子さん（当事業所卒業生）を持つ保護者の方に作業所の決め方や現在のお子さんの状況をお話していただき、参加した保護者から勉強になったとのご意見を頂いた。	家族の方が参加できる研修はできていないが、保護者のご要望を聞き、今後ためになるお話が聞ける機会が提供できればと思う。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			2	契約時、説明を行っている。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			2	保護者の希望を聞いたり、ある程度わかる年齢になったら、子どもの気持ちを聞くようにしている。		
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8			2	支援内容を説明し、保護者から同意を得ている。		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		2	モニタリング時に、ご家庭での子どもの様子を聞き、困っていることや悩みをお聞きするようにしている。また適宜相談に応じている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	2	1	保護者会の時に、作業所に行っているお子さんのお母様の講話の後、茶話会を行い、その方にもグループに入ってもらい、保護者同士で交流していただいた。	きょうだい児の支援はできていない。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		1	保護者から依頼や問い合わせがあった場合は職員間で共有し、すぐに対処するようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9		1	ブログにて行事予定や、日々の活動を報告している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		1	個人情報に関する書類は鍵付きのロッカーに保管している。ブログに載せる子どもの写真は個人の特長ができないよう加工している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		1	耳からの情報が入りにくい子には、視覚的なカードを用いている。保護者から連絡しやすいように、またこちらからの連絡も正確に届くように、LINEを活用している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	1	1	近所の老人ホームの利用者さんをクリスマス会に招き、ハロウィンの時は老人ホームに訪問させていただき、お年寄りの方と交流ができた。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		1	マニュアルを策定し、災害時の訓練は実施している。	様々なマニュアルの家族への周知はできていない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10			定期的に災害時の避難訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	10			契約時に既往歴や服薬などを確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10			食物アレルギーの資料は個人ファイルに入れ職員が把握している。おやつや行事での調理のときなど気をつけている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		2	安全計画を作成し、施設設備や送迎車の安全点検、防災訓練などを行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		3	災害時の避難場所、事業所の対応、家族への連絡方法などをお知らせしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10			ヒヤリハット事例があれば作成し、指導員会議や日々のミーティングで共有し再発防止を検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		1	虐待防止の研修会を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	1	2	身体拘束が必要な子どもは今までいなかったが、虐待や身体拘束についての研修を行い、職員間で共通理解ができるようにしている。		